

群馬県高校地理 ICTワーキンググループの

本年度の取り組み

前橋商業高等学校 教諭 田中隆志

1 群馬高校地理 ICT ワーキンググループとは

(1) ワーキンググループの発足

まずこのワーキンググループの発足ですが、今年度初めの理事会がきっかけでした。過去3年間にわたり、「国土交通省のGIS定着化事業」に協力して活動してきた部会の「GISワーキンググループ」が昨年度末をもって活動を終了させたのをうけ、その活動を「地理部会マターで継承・発展」させようということで、部会長提案という形で発足しました。とりまとめ役は、去年までのGISワーキンググループでのいきさつがあり、私がすることになりました。その後、地理部会総会でのワーキング発足の呼びかけに14名のメンバーが参同して集まり、具体的な活動は6月からスタートしました。

(2) 活動目的・活動内容の設定

ワーキングの活動を始めるのにあたり、まず私が考えたことは、活動目的と活動内容、メンバーの情報交流手段です。

まず活動目的については、GISだけに限定されない、ICTとGISの双方の研修を進めて、メンバー各員が「実用的なスキル」を習得できるようにしていこうという目的を設定しました。それは「昨年度までのGISワーキンググループ」の研修が、国交省のGIS活用推進事業への協力グループという性格上、GISに特化した内容になってしまったため、他の「実用的なICTツール」の研修がほとんどできなかったとの反省があったためです。

また活動内容は、よくばって、3つの取り組みを考えました。①ICT&GISツールの実技研修、②代表者による研究授業の組み立て、③個々の教員による各校での取り組みです。

そして情報交流の手段としては、昨年度までのGI

S研修でも使い、情報交流の手段として大きな成果をあげていたML（メーリングリスト）などSNS（ソーシャルネットワークサービス）を積極的に活用することにしました。

以上が一年間のワーキングの基本方針ということで年度当初設定したものです。

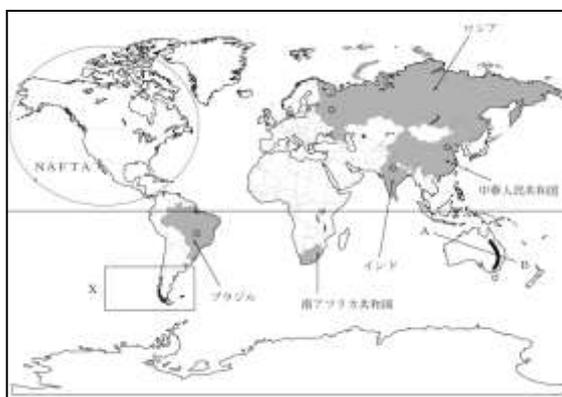
(3) 具体的な活動

①実技研修

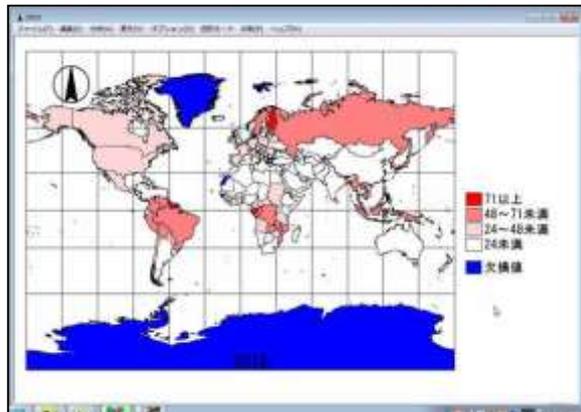
続いて具体的なワーキングの取り組みについて、もう少しお話していきたいと思いますが、まず実技研修については6月～11月の間に3回、私が講師となり進めました。「高校の地理授業において、是非、これからのとくに若い地理教員が知っておいた方がいいだろうなというスキルの演習」というコンセプトで実施しました。

第1回目は、総合教育センターの第1PC室で「実用的な素材収集の研修」というテーマで行いました。内容は、本当に基本的なサイト検索の方法、パソコン画面のハードコピー（いけどり）の方法とか、GoogleEarthでフライトシュミレーターを作りそれを動画イメージでコンテンツ化する方法、英文素材を活用する方法について講習を行いました。

第2回目は前橋商業高校の大会議室で行いましたが、単純な画像処理の方法、地理の授業の中でよく使う「簡単な位置図」の作成方法などについてPhotoShop, Illustratorの有用性について講習を行いました。



さらに第3目回も前橋商業高校の大会議室で行いましたが、MANDARA でグローバルスケールの統計地図を作る方法について、私のまったくの我流で研修を行いました。



②研究授業づくり

ワーキングのもう一つの重要な柱である「代表者による研究授業の組み立て」ですが、「ワーキングの有効性を検証する手立て」として、昨年12月14日の原澤先生による研究授業を着地点として、11月と12月を中心に多くの時間を費やし実施しました。時期的にスタートが遅かったこともあり、メンバー全員の動員が難しく、基本的には、授業担当者の原澤先生を中心に、わたくし田中と、事務方の生沢先生が意見を出していく形で進めました。

当初、授業担当者の原澤先生から提案していただいた授業のテーマは、「地理Aのヨーロッパ地誌のEUの学習」でした。ただその後、11月14日の3人のうち合わせの中で「ワーキングで研修したICTとGISスキルをより効果的に使うために、ヨーロッパの導入部分を抜こう」という方向性に修正されました。さらに11月26日、原澤先生に総合教育センターの401号室で模擬授業を行っていただいたあと、センターの榎本指導主事、小熊指導主事や、矢島地理部会長などから沢山のご意見をいただき、「もっと生徒に考えさせ、動かす双方向の授業」にしていこうということになりました。そしてその後さらに、12月3日、具体的なコンテンツ

の活用について話し合いを行い、その延長線上で12月14日の研究授業が行われました。

正直いって、こうした「研究授業づくり」が、もっと多くのメンバーを巻き込んだ形でできたら、「単にスキルやツールのみには走らない授業づくり」とか、「丁寧な授業コンテンツ作り」という体験をもっと多くの先生方と共有でき、部会全体の授業レベルの向上につながったのかなと思います。その点については来年度以降の課題にしたいと考えています。

2 研究授業の検証

12月14日の研究授業では手前みそですが、「実技研修の有効性」がある程度実証できたものと考えます。次は、その点について補足していきたい思います。

まず先述した実技研修の中では、GoogleEarthやインターネット上の地図を生徒にじっくりと読み取らせるために、WinShotというハードコピーツールなどで、パソコン画像を生け捕って使うといいですよというのをやりましたが、この方法は、研究授業の随所で活用され、それなりに生徒の視覚的理解に役だったものと考えます。

また実技研修では、英文サイトでも有用なものは積極的に活用しようということをやりましたが、研究授業の中でも、「ユーロスタット」というEUが運営する英文サイトとか、有用と思える英文サイトをいくつも積極的に使いました。



そして実技研修の中では、GEで作ったフライトシュミレータ的なムービーは、地形や地域の概観などには有効ですよ。ただし教室で直接生徒に見せようとする

と、パソコンの設定とかで時間のロスがあるので、あらかじめ動画キャプチャツールで、その動画イメージをコンテンツ化しておくといいですよっていうのをやりましたが、今回の授業でもそのスキルを使って、短時間で効果的に「ヨーロッパ地誌への導入」をはかることに成功していると思います。



さらに実技研修の中では「単純な画像処理やと製図」についてもやりましたが、授業の中では、PhotoShopで画像処理した陰影図も使われました。Illustratorの製図スキルを利用した地図描写を入れました。これらのツールについては、ある程度、時間をかけと使いこなせないものですが、こういうツールも頑張れば作れこなせるのだなということは実証できたと思います。



研究授業については、いま振り返ってみると、私が、その前の実技研修で取り上げたものを「あれも使って、これも使って」と、授業担当者の原澤先生にはいろいろと無理難題をお願いしたせいとで、迷惑をかけ、苦しめてしまいました。ただ「ワーキングの総仕上げ」としての研究授業は、授業担当者の原澤先生の実力もあり、ハイレベルなスキルとツールの活用という「足

かせ」のある中で、きちんと生徒との双方向の授業に持ち込んでいるという点で、成功だったと思います。

3 今年度のふりかえりと今後の展望

(1) 今年度のふりかえり

最後、まとめ役という立場から、このワーキングの一年を総括したいと思います。正直言って、今年はスタートして一年目であるのにもかかわらず、参加したメンバーのそれぞれが多くのことを学び、手ごたえを感じられた一年だったように考えます。校務との関係で、通年参加が難しいメンバーが多く、「ワーキングメンバーの参加の仕方」を考えなければという課題も残りました。ただ今年度のワーキングで、ある程度の「成果」が認められたと考えますので、来年度のワーキングについても、基本的には同様の方向性で、有志中心に継続していきたいと考えます。

(2) 来年度の展望

そこで今年度の「ワーキングメンバーの参加の仕方」には少なからず課題が残ったわけですが、来年度以降は、ホームページや、Facebook、MLなどの活用によって、メンバーが一同に会さなくてもワーキングの活動に参加できるような方策を検討したいと構想しています。つまりワーキングの一部を「FBやメールのやり取り」を通したコンテンツ作りという内容にしたり、メンバーが作ったコンテンツを「オリジナルのホームページで共有化する」といった「ワーキングの一部電子化」を考えています。もちろん今年度と同様の研修、研究授業づくりとか、実技研修についても、可能な限り実施したいと思います。

実は、来年度のワーキングに役立てようと、部会長に相談させていただいて、すでにホームページを仮に立ち上げています。サイト名は、将来的に「部会全体の活性化」にも役立つとよいなと考え、公式サイトの含ませた「(仮)群馬県高教研地理部会」としています。

もし、部会員の先生方の参同が得られれば、今後の部会の活動、部会誌を掲載するなど公式サイト化を進

める考えです。総合教育センターの先生に確認をとったところ、部会で公式サイトをもつこと自体は問題ないということなので、正式に公式サイトにすること自体は可能です。ただし参同が得られなければワーキング関係に特化させたサイトにするだけです。

以上、来年度のこともちゃんと考えていますよということで、ワーキングの報告を終わりにしたいと思います。それではご清聴ありがとうございました。

追記

この発表後、研究発表会全員の先生方全員から「地理部会公式サイト」設置について参同が得られました。そのため、以下のように公式サイトを正式に開設いたしました。群馬県高教研の部会で公式サイトを開設しているのは、地学だけだったので、2番目の開設となります。

まだまだサイト内は、これから整備していく予定ですが、今後は、ICTワーキンググループのみならず、部会委員相互の情報交流、情報共有と、県内外への情報発信のツールの一つとして活用していく予定です。その運用について、ご意見、ご指摘などがありましたら、サイト内の「問合せフォーム」か、サイト内に併設のブログの「コメント欄」にお寄せください。



<http://gummachiri.ikaduchi.com/>